

小学生以上・成人 用

神経系統の障害に関する医学的意見

患者 氏名		男 ・ 女	才
----------	--	-------------	---

記入年月日 年 月 日

病院名

診療科

医師名 ④

1. 画像(脳MRI、脳CTなど)および脳波 これらの医学的検査において、検査名・検査日と特記すべき所見をお示しください。

2. 神経心理学的検査 知能、記憶、情報処理能力、遂行機能、言語などの検査を行っていましたら、検査日と所見をお示しください。(併せて検査報告書のコピーを添付してください。)

検査日(年 月 日)

検査名と所見:

3. 運動機能 該当する項目に○をつけてください。また筋力もMMT(5~0)で記入してください。

右上肢	1.正常	2.手指巧緻性低下	3.補助手	4.廃用		
筋力	肩屈曲:	肩外転:	肘屈曲:	肘伸展:	手屈曲:	手伸展:
左上肢	1.正常	2.手指巧緻性低下	3.補助手	4.廃用		
筋力	肩屈曲:	肩外転:	肘屈曲:	肘伸展:	手屈曲:	手伸展:
右下肢	1.正常	2.耐久力低下/つまずきやすい	3.片足立ち困難/下肢装具使用	4.廃用		
筋力	股屈曲:	股伸展:	膝屈曲:	膝伸展:	足屈曲:	足伸展:
左下肢	1.正常	2.耐久力低下/つまずきやすい	3.片足立ち困難/下肢装具使用	4.廃用		
筋力	股屈曲:	股伸展:	膝屈曲:	膝伸展:	足屈曲:	足伸展:
体幹	1.正常	2.軽度バランス障害	3.バランス悪く長く立ってられない	4.座ってられない		

4. 身の回り動作能力 該当する項目に○をつけてください。

食事動作	1.自立	2.ときどき 介助・見守り・声かけ	3.ほとんどできない/大部分介助	4.全面的に介助
更衣動作	1.自立	2.ときどき 介助・見守り・声かけ	3.ほとんどできない/大部分介助	4.全面的に介助
排尿・排尿動作	1.自立	2.ときどき 介助・見守り・声かけ	3.ほとんどできない/大部分介助	4.全面的に介助
排便・排便動作	1.自立	2.ときどき 介助・見守り・声かけ	3.ほとんどできない/大部分介助	4.全面的に介助
入浴動作	1.自立	2.ときどき 介助・見守り・声かけ	3.ほとんどできない/大部分介助	4.全面的に介助
屋内歩行	1.自立	2.つかまり歩き/てすり	3.てつなぎ/装具/歩行器	4.屋内歩行不能
屋外歩行	1.自立	2.ときどき介助/遠くへ行けない	3.てつなぎ/装具/歩行器	4.屋外歩行不能
階段昇降	1.自立	2.ときどき 介助・見守り/てすり	3.ほとんどできない/大部分介助	4.階段昇降不能
車いす操作	1.自立	2.ときどき 介助・見守り・声かけ	3.ほとんどできない/大部分介助	4.車いす自操不能
公共交通機関	1.自立	2.ときどき 介助・見守り・声かけ	3.ほとんどできない/大部分介助	4.公共交通機関は利用できない

5. てんかん発作の有無

(1) 無し

(2) 有り:

①治療のために使用している抗てんかん薬の種類と量:

②上記の治療を行っていても発作がある場合は、その頻度: 年____回程度、月____回程度、日____回程度

③多く見られる発作の型:

6. 認知・情緒・行動障害 (以下の1~21の症状について該当する数字に○をつけてください)

1	2	3	4
なし	軽度 / 稀に	中等度 / ときどき	重度 / 頻回
障害なし	障害はあるが軽度であり、生活には支障がない	代償手段の工夫や家族等の援助で対処できている	深刻な生活困難さを起こす原因となっている。

1	以前に覚えていたことを思い出せない	1	2	3	4
2	新しいことを覚えられない	1	2	3	4
3	疲れやすく、すぐ居眠りする	1	2	3	4
4	自発性低下、声かけが必要	1	2	3	4
5	気が散りやすく、飽きっぽい	1	2	3	4
6	発想が幼児的、自己中心的	1	2	3	4
7	話がまわりくどく、考えを相手に伝えられない	1	2	3	4
8	周囲の人との意思疎通を上手に行えない	1	2	3	4
9	複数の作業を同時に行えない	1	2	3	4
10	行動を計画したり、正確に遂行することができない	1	2	3	4
11	粘着性、しつこい、こだわる	1	2	3	4
12	感情の変動がはげしく、気分が変わりやすい	1	2	3	4
13	感情や言動をコントロールできない	1	2	3	4
14	ちょっとしたことですぐ怒る	1	2	3	4
15	暴言・暴力	1	2	3	4
16	性的な異常行動・性的羞恥心の欠如	1	2	3	4
17	ふさぎこむ、気分がおちこむ	1	2	3	4
18	特に理由もなく不安を感じている	1	2	3	4
19	夜、寝つけない、眠れない	1	2	3	4
20	幻覚や妄想がある	1	2	3	4
21	受傷前と違っていることを自分では認めない	1	2	3	4

7. 上記6. の症状が社会生活・日常生活に与える影響について具体的にご教示ください。

8. 全般的活動および適応状況

家庭、地域社会、職場、または学校などでの、全般的活動状況ならびに適応状況について具体的にご教示ください。